

- 35 スペードの素数は 2, 3, 5, 7, 11, 13 の 6 枚なので ,
 $P(A) = \frac{6}{52}$. 絵札は J, Q, K でそれぞれの数字はハート ,
 ダイヤ , クラブ , スペード の 4 つのスートがある
 から $3 \times 4 = 12$ 枚より , $P(B) = \frac{12}{52}$. スペードの素数
 で絵札なのは J, K の 2 枚だから $P(A \cap B) = \frac{2}{52}$.

したがって求める確率 $P_A(B)$, $P_B(A)$ は

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{\frac{2}{52}}{\frac{6}{52}} = \frac{1}{3}$$

$$P_B(A) = \frac{P(A \cap B)}{P(B)} = \frac{\frac{2}{52}}{\frac{12}{52}} = \frac{1}{6}$$

- 36 (1) 大小 2 個のさいころを同時に投げるときの全事
 象は $6^2 = 36$ 通り . 大きいさいころの出る目が偶
 数である事象 A は , 2, 4, 6 の 3 通り . 小さいさ
 いころは 1~6 の 6 通りから任意に取れるので ,
 $n(A) = 3 \times 6 = 18$ 通り .

したがって求める確率 $P(A)$ は

$$P(A) = \frac{18}{36} = \frac{1}{2}$$

- (2) 大きいさいころの出る目が偶数かつ出る目の和
 が 7 である事象 $A \cap B$ は , (大きいさいころの出
 る目, 小さいさいころの出る目) で表すと ,

$$(2, 5), (4, 3), (6, 1)$$

の 3 通りなので , $n(A \cap B) = 3$.

したがって求める確率 $P_A(B)$ は

$$P_A(B) = \frac{n(A \cap B)}{n(A)} = \frac{3}{18} = \frac{1}{6}$$

- (3) 確率の乗法定理より , 求める確率 $P(A \cap B)$ は

$$P(A \cap B) = P(A)P_A(B) = \frac{1}{2} \times \frac{1}{6} = \frac{1}{12}$$

- 37 (1) 野球観戦が好きな会員である事象を A , サッ
 カー観戦が好きな会員である事象を B とすると ,

$$P(A) = \frac{40}{100}, \quad P_A(B) = \frac{70}{100},$$

$$P_A(\bar{B}) = 1 - P_A(B) = \frac{30}{100}$$

確率の乗法定理より , 野球は好きだがサッカーは
 好きでない確率 $P(A \cap \bar{B})$ は

$$P(A \cap \bar{B}) = \frac{40}{100} \times \frac{30}{100} = \frac{3}{25}$$

- (2) テニス観戦が好きな会員である事象を C とす
 ると ,

$$P_{A \cap B}(C) = \frac{80}{100}$$

したがって野球観戦もサッカー観戦もテニス観戦
 も好きな確率 $P(A \cap B \cap C)$ は

$$\begin{aligned} P(A \cap B \cap C) &= P(A)P_A(B)P_{A \cap B}(C) \\ &= \frac{40}{100} \times \frac{70}{100} \times \frac{80}{100} \\ &= \frac{28}{125} \end{aligned}$$

- (3) $P_{A \cap B}(C)$ の余事象を考えて

$$\begin{aligned} P_{A \cap B}(\bar{C}) &= 1 - P_{A \cap B}(C) \\ &= 1 - \frac{80}{100} \\ &= \frac{20}{100} \end{aligned}$$

これより , 野球観戦もサッカー観戦も好きだがテ
 ニス観戦は好きではない確率 $P(A \cap B \cap \bar{C})$ は

$$\begin{aligned} P(A \cap B \cap \bar{C}) &= P(A)P_A(B)P_{A \cap B}(\bar{C}) \\ &= \frac{40}{100} \times \frac{70}{100} \times \frac{20}{100} \\ &= \frac{7}{125} \end{aligned}$$

- 38 (1) 20 本のくじから当たりくじ 4 本を引く確率な
 ので , 求める確率を $P(A)$ とすると

$$P(A) = \frac{4}{20} = \frac{1}{5}$$

- (2) 全事象は $n(\Omega) = {}_{20}P_3$ 通り .
 「 B が当たる事象」= 「 A が当たり B も当たる事
 象」 \cup 「 A がはずれ B が当たる事象」.
 「 A が当たり B も当たる事象」は

$$n(A \cap B) = 4 \cdot 3 \cdot 18 \text{ 通り}$$

「 A がはずれ B が当たる事象」は

$$n(\bar{A} \cap B) = 16 \cdot 4 \cdot 18 \text{ 通り}$$

したがって求める確率を $P(B)$ とすると

$$\begin{aligned}P(B) &= P((A \cap B) \cup (\bar{A} \cap B)) \\&= P(A \cap B) + P(\bar{A} \cap B) \\&= \frac{n(A \cap B)}{n(\Omega)} + \frac{n(\bar{A} \cap B)}{n(\Omega)} \\&= \frac{4 \cdot 3 \cdot 18}{20P_3} + \frac{16 \cdot 4 \cdot 18}{20P_3} \\&= \frac{1}{5}\end{aligned}$$

(3) 「 A も B も C も当たる事象」は

$$n(A \cap B \cap C) = 4 \cdot 3 \cdot 2 \text{ 通り}$$

したがって求める確率を $P(A \cap B \cap C)$ とすると

$$\begin{aligned}P(A \cap B \cap C) &= \frac{n(A \cap B \cap C)}{n(\Omega)} \\&= \frac{4 \cdot 3 \cdot 2}{20P_3} \\&= \frac{1}{285}\end{aligned}$$

(4) 「 A が当たり B がはずれて C が当たる事象」は

$$n(A \cap \bar{B} \cap C) = 4 \cdot 16 \cdot 3 \text{ 通り}$$

したがって求める確率を $P(A \cap \bar{B} \cap C)$ とすると

$$\begin{aligned}P(A \cap \bar{B} \cap C) &= \frac{n(A \cap \bar{B} \cap C)}{n(\Omega)} \\&= \frac{4 \cdot 16 \cdot 3}{20P_3} \\&= \frac{8}{285}\end{aligned}$$

(5) 「 C が当たる事象」=「 A も B も C も当たる事象」 \cup 「 A がはずれ B と C が当たる事象」 \cup 「 B がはずれ A と C が当たる事象」 \cup 「 A と B がはずれ C が当たる事象」.

「 A がはずれ B と C が当たる事象」は

$$n(\bar{A} \cap B \cap C) = 16 \cdot 4 \cdot 3 \text{ 通り}$$

「 A と B がはずれ C が当たる事象」は

$$n(\bar{A} \cap \bar{B} \cap C) = 16 \cdot 15 \cdot 4 \text{ 通り}$$

したがって求める確率を $P(C)$ とすると

$$\begin{aligned}P(C) &= P(A \cap B \cap C) + P(\bar{A} \cap B \cap C) \\&\quad + P(A \cap \bar{B} \cap C) + P(\bar{A} \cap \bar{B} \cap C) \\&= \frac{n(A \cap B \cap C)}{n(\Omega)} + \frac{n(\bar{A} \cap B \cap C)}{n(\Omega)} \\&\quad + \frac{n(A \cap \bar{B} \cap C)}{n(\Omega)} + \frac{n(\bar{A} \cap \bar{B} \cap C)}{n(\Omega)} \\&= \frac{4 \cdot 3 \cdot 2}{20P_3} + \frac{16 \cdot 4 \cdot 3}{20P_3} \\&\quad + \frac{4 \cdot 16 \cdot 3}{20P_3} + \frac{16 \cdot 15 \cdot 4}{20P_3} \\&= \frac{1}{5}\end{aligned}$$

39 (1) 3 の倍数は $\frac{600}{3} = 200$ 個, 5 の倍数は $\frac{600}{5} = 120$ 個なので,

$$P(A) = \frac{200}{600} = \frac{1}{3}, \quad P(B) = \frac{120}{600} = \frac{1}{5}$$

また, 3 の倍数かつ 5 の倍数は, $\frac{600}{3 \times 5} = 40$ 個なので,

$$P(A \cap B) = \frac{40}{600} = \frac{1}{15} = P(A)P(B)$$

したがって A と B は互いに独立である.

1 から 400 の場合,

3 の倍数は $\frac{400}{3} = 133.3 \dots \approx 133$ 個,

5 の倍数は $\frac{400}{5} = 80$ 個なので,

$$P(A) = \frac{133}{400}, \quad P(B) = \frac{80}{400} = \frac{1}{5}$$

また, 3 の倍数かつ 5 の倍数は,

$\frac{400}{3 \times 5} = 26.6 \dots \approx 26$ 個なので,

$$P(A \cap B) = \frac{26}{400} = \frac{130}{2000} \neq P(A)P(B)$$

したがって A と B は互いに独立でない.

(2) 素数の目が出る事象は, 1, 2, 3, 5 のときの 4 通りなので

$$P(A) = \frac{4}{6} = \frac{2}{3}$$

2 の倍数の目が出る事象は 2, 4, 6 のときの 3 通りなので

$$P(B) = \frac{3}{6} = \frac{1}{2}$$

3の倍数の目が出る事象は3, 6のときの2通りなので

$$P(C) = \frac{2}{6} = \frac{1}{3}$$

素数かつ2の倍数が出る事象 $A \cap B$ は2のときの1通りのなので

$$P(A \cap B) = \frac{1}{6} \neq P(A)P(B)$$

したがって, A と B は互いに独立でない.
2の倍数かつ3の倍数の目が出る事象 $B \cap C$ は6のときの1通りのなので

$$P(B \cap C) = \frac{1}{6} = P(B)P(C)$$

したがって, B と C は互いに独立である.
3の倍数かつ素数の目が出る事象 $C \cap A$ は3のときの1通りのなので

$$P(C \cap A) = \frac{1}{6} \neq P(C)P(A)$$

したがって, C と A は互いに独立でない.

コメント

解答では「互いに独立である」となっている

- 40 (1) A と B は互いに独立なので, 事象の独立性より求める確率 $P(A \cap B)$ は

$$P(A \cap B) = P(A)P(B) = \frac{1}{3} \times \frac{2}{5} = \frac{2}{15}$$

- (2) 確率の加法定理と(1)の結果より, 求める確率 $P(A \cup B)$ は

$$\begin{aligned} P(A \cup B) &= P(A) + P(B) - P(A \cap B) \\ &= \frac{1}{3} + \frac{2}{5} - \frac{2}{15} \\ &= \frac{3}{5} \end{aligned}$$

- 41 (1) 1回目に赤玉が出る事象を A_1 , 2回目に白玉が出る事象を B_2 , 3回目に白玉が出る事象を B_3 とする. 復元抽出より A_1, B_2, B_3 は互いに独立だから, この事象の確率を $P(A_1 \cap B_2 \cap B_3)$ とすると

$$\begin{aligned} P(A_1 \cap B_2 \cap B_3) &= P(A_1)P(B_2)P(B_3) \\ &= \frac{3}{9} \times \frac{6}{9} \times \frac{6}{9} \\ &= \frac{4}{27} \end{aligned}$$

同様に, 2回目に赤玉, 3回目に赤玉が出る事象を考えて, それぞれの事象の確率を $P(B_1 \cap A_2 \cap B_3)$, $P(B_1 \cap B_2 \cap A_3)$ とし, 求める確率を P とおけば

$$\begin{aligned} P &= P(A_1 \cap B_2 \cap B_3) \\ &\quad + P(B_1 \cap A_2 \cap B_3) \\ &\quad + P(B_1 \cap B_2 \cap A_3) \\ &= 3 \times \frac{4}{27} \\ &= \frac{4}{9} \end{aligned}$$

- (2) 1回目に赤玉が出る事象を A_1 , 2回目に白玉が出る事象を B_2 , 3回目に白玉が出る事象を B_3 とする. 非復元抽出より A_1, B_2, B_3 は互いに独立でないから, この事象の確率を $P(A_1 \cap B_2 \cap B_3)$ とすると, 確率の乗法定理より

$$\begin{aligned} P(A_1 \cap B_2 \cap B_3) &= P(A_1)P_{A_1}(B_2)P_{A_1 \cap B_2}(B_3) \\ &= \frac{3}{9} \times \frac{6}{8} \times \frac{5}{7} \\ &= \frac{5}{28} \end{aligned}$$

同様に, 2回目に赤玉, 3回目に赤玉が出る事象を考えて, それぞれの事象の確率を $P(B_1 \cap A_2 \cap B_3)$, $P(B_1 \cap B_2 \cap A_3)$ とし, 求める確率を P とすれば

$$\begin{aligned} P &= P(A_1 \cap B_2 \cap B_3) \\ &\quad + P(B_1 \cap A_2 \cap B_3) \\ &\quad + P(B_1 \cap B_2 \cap A_3) \\ &= 3 \times \frac{5}{28} \\ &= \frac{15}{28} \end{aligned}$$

- 42 (1) 1個のさいころを1回投げるとき, 1の目が出る確率 p は $p = \frac{1}{6}$

反復試行の確率公式より, 求める確率 P は

$$P = {}_4C_3 \left(\frac{1}{6}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{6}\right)^{4-3} = \frac{5}{324}$$

- (2) 1枚の硬貨を1回投げるとき, 表が出る確率 p は $p = \frac{1}{2}$

反復試行の確率公式より, 求める確率 P は

$$P = {}_7C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(1 - \frac{1}{2}\right)^{7-2} = \frac{21}{128}$$

- (3) 1 回玉を復元抽出するとき、白玉が出る確率 p は $p = \frac{2}{5}$

反復試行の確率公式より、求める確率 P は

$$P = {}_3C_2 \left(\frac{2}{5}\right)^2 \left(1 - \frac{2}{5}\right)^{3-2} = \frac{36}{125}$$

- 43 (1) 1 の目が 1 回、2 の目が 2 回出る事象は、(1 回目の目, 2 回目の目, 3 回目の目) とすれば、(1, 2, 2), (2, 1, 2), (2, 2, 1) の 3 通り。各出目は $\frac{1}{6}$ の確率で出るので、求める確率 P は

$$P = 3 \times \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{1}{72}$$

- (2) 1 個のさいころを 1 回投げるとき、奇数の目が出る確率 p は $p = \frac{3}{6} = \frac{1}{2}$

反復試行の確率公式より、求める確率 P は

$$P = {}_3C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{2}\right)^{3-3} = \frac{1}{8}$$

- (3) 少なくとも 1 回奇数の目が出る事象は、すべて偶数の目が出る事象の余事象。偶数の目が出る確率 p は $p = \frac{3}{6} = \frac{1}{2}$ 。反復試行の確率公式より、求める確率 P は

$$\begin{aligned} P &= 1 - {}_3C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{2}\right)^{3-3} \\ &= 1 - \frac{1}{8} \\ &= \frac{7}{8} \end{aligned}$$

- (4) 奇数の目が出る回数が偶数の目が出る回数よりも多くなるのは、奇数の目が 2 回以上出たとき。奇数の目が出る回数が 2 回の事象を A_2 , 3 回の事象を A_3 とする。反復試行の確率公式より、求める確率 P は

$$\begin{aligned} P &= P(A_2) + P(A_3) \\ &= {}_3C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(1 - \frac{1}{2}\right)^{3-2} \\ &\quad + {}_3C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{2}\right)^{3-3} \\ &= \frac{3}{8} + \frac{1}{8} \\ &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

- (5) 3 回目に 6 の目が出る事象を B_3 とすると、 $P(B_3) = \frac{1}{6}$

1 回目と 2 回目は 6 の目以外で任意なので、 B_1 , B_2 を用いて、 $P(B_1) = P(B_2) = \frac{5}{6}$

求める確率 P は

$$\begin{aligned} P &= P(B_1)P(B_2)P(B_3) \\ &= \frac{5}{6} \times \frac{5}{6} \times \frac{1}{6} \\ &= \frac{25}{216} \end{aligned}$$

- (6) 3 回目に 2 回目の 6 の目が出るには、1 回目または 2 回目のいずれかで 1 回目の 6 の目が出ていなければならない。求める確率 P は

$$\begin{aligned} P &= \frac{1}{6} \times \frac{5}{6} \times \frac{1}{6} + \frac{5}{6} \times \frac{1}{6} \times \frac{1}{6} \\ &= \frac{5}{108} \end{aligned}$$